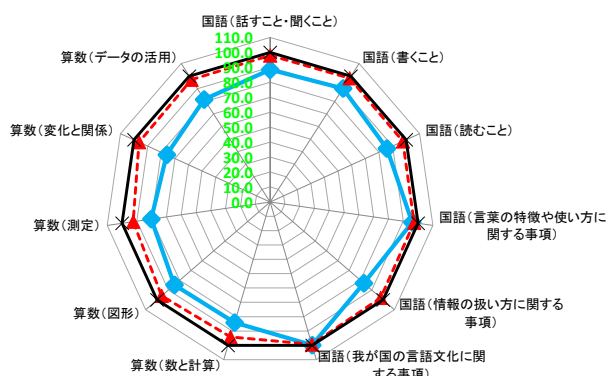


■大空町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:42人）（中学校数:2校、生徒数:48人）

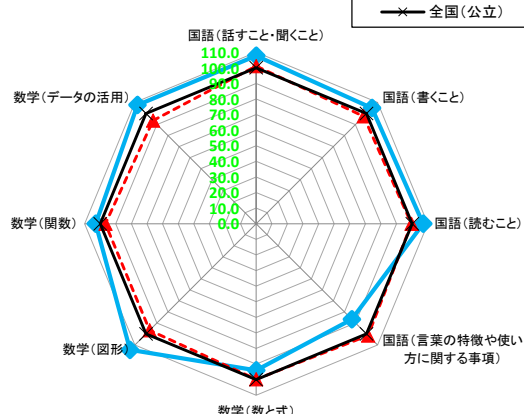
領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

【教科全体の状況】

小学校



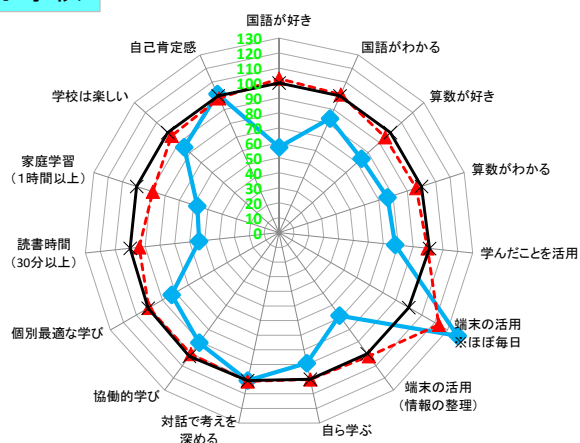
中学校



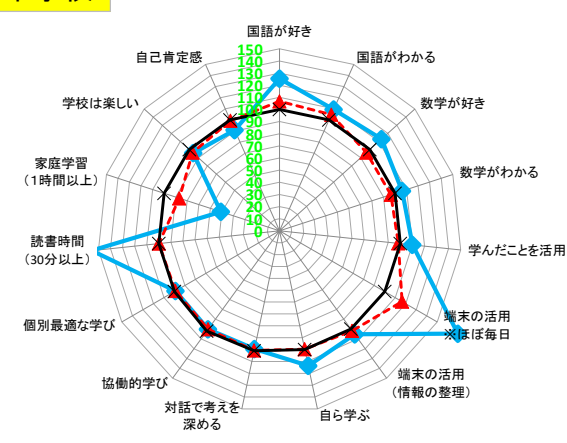
平均正答率	小学校	中学校
国語	60	56
算数・数学	48	50

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

- ・ほとんどの領域や問題で全国平均より低い。また、どの教科も「好き」「わかる」「学校が楽しい」の割合が低いことから、一人一人に応じた「わかる・できる」授業に一層取り組む必要がある。
- ・家庭学習時間や読書時間が格段に少ない。
- ・学校力を高め、学校全体で「共通・一貫・徹底・継続」した取組で系統的に学力を積み上げたい。
- ・主体的・対話的で協働的な学びの授業を一層進める。
- ・ICTの活用は進んでいるが、情報の収集・整理に課題。
- ・ICTを効果的に活用した個別最適な学びの充実を図る。
- ・期間が空き学んだことを忘れていくケースが少なくない。系統性を踏まえ意図的に復習する機会をつくる必要がある。

中学校

- ・どの教科も「好き」「わかる」の割合が高く、授業改善の成果。
- ・具体的には、「目指す資質・能力を明確にした授業」、「螺旋的・反復的に育成する年間計画及び単元を見通した指導計画」、「考えを記述する時間の設定と生徒に応じた手だて」、デジタル教科書による視覚支援などがあげられる。
- ・また、探究心や粘り強さ、「教科での学びを実生活とつなぐこと」が授業で育まれている。
- ・家庭学習時間が少ない。「自学力」を身に付けられるよう小中一貫した取組が必要。
- ・素直だが自分に自信を持っていない生徒が多いので、発達支持的生徒指導の充実に向け、「挑戦させ、褒めて、認める」指導を継続し自己肯定感を高めたい。

【大空町の学力向上策】

- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた、小中一貫による授業改善
- ◎ 「何ができるようになるか」を児童生徒と教員が共有した学習指導の推進
- ◎ ICT機器やデジタル教材を効果的に活用した学習指導の推進
- ◎ 小中一貫した系統的な学習規律・学習習慣の定着

【Webページ】

